

カツオ好き高知市民

総務省家計調査

高知県民のカツオ好きはよく知られた話だ。そのデータを裏打ちする総務省の家計調査を開き、各項目をつぶさに見ていくと、こんな県民像も浮かんできた。「弁当を買うことが多く、酒はもっぱら発泡酒。あてはカツオと白菜漬け。外食するなら、焼き肉、すしを好む」一。あなたの周りにそんな方、いらっしゃいますか？

酒は発泡酒！ 焼き肉大好き



店頭にずらりと並んだ発泡酒や第三のビール。箱買いする客が多いという(高知市北竹島町の佐野屋竹島店)

高知市の2020～22年の主な家計調査結果(抜粋)

金額		数量
金額上位		数量
① カツオ	7425円	① 4182箱
白菜漬け	1701円	① 1880箱
発泡酒・ビール風 アルコール飲料	1万7395円	① 50.68箱
つゆ・たれ	6308円	
弁当	2万4534円	
焼き肉	1万2033円	
② 飲酒代	1万4211円	
④ しらす干し	2817円	③ 971箱
魚肉練り製品	1万456円	
⑤ すし(外食)	1万7816円	
即席麺	2588円	⑤ 3559箱
スナック菓子	6971円	
天ぷら・フライ	1万3908円	
冷凍調理食品	1万2147円	
ハンバーガー	6881円	
⑩ 緑茶	1729円	⑩ 391箱
⑪ 乾うどん・そば	1418円	⑪ 1830箱
牛乳	1万2438円	⑪ 57.91箱
⑫ 刺し身盛り合わせ	1301円	⑫ 512箱
ギョーザ	1446円	
金額下位		

※○数字は52都市の順位

調査は、都道府県庁所在地と政令指定都市の計52地点で1世帯(2人以上)当たりの年間支出額や購入量をまとめた。穀物や魚介、肉、野菜、菓子類など12分野の21品目について、3年間(最新年と過去2年)の平均を毎年発表している。

今年2月の発表によると、高知市が金額、量ともに1位になったのはカツオや白菜漬けなど6品。しらす干しや、魚肉練り製品などが5位以内に食い込んだ(表参照)。

おきやく好きが多いせい、か、飲酒代は東京都区部(1万5734円)に次ぐ2位(1万4211円)。外食費は11位(1万7693円)で、焼き肉が1位、すしやハンバーガーが5位となった。

その分、家では節約を心掛けていこうだ。発泡酒の支出額・量は全国トップだが、ビールや焼酎、ワインなどは軒並み下位で、清酒は49位(3276円)。酒類の消費額は17位(4万7840円)だった。

あふれるカツオ愛の一方で、刺し身の盛り合わせに費やす額は最下位。生鮮魚介の支出額は33位(3万9726円)で、量は26位(21・937キ)。いずれも全国平均を下回

っており、海のない奈良市や相模原市、大津市よりも低かった。

さらに、生鮮野菜の支出額は46位(6万1800円)で、消費量は51位(140・998キ)。支出額はタマネギが最下位、ニンジンが51位だった。

調理に時間をかけたくないのか、中食や冷凍食の額が多いという結果も。高知県立大学健康栄養学部の渡辺浩幸教授と、彼未富貴助手は「直販所などで新鮮な魚や野菜がたくさん売られているのに。調査結果には驚かされた」と口をそろえる。

その上で「カツオなど刺し身で食べる魚は買うが、調理が必要なのはあまり購入していない。肉類や乾物も同じ理屈だろう」と指摘。背景について、「共働きの多さもある。細かな調理ができない、しない家庭が多いようだ」とし、健康のためにもっと野菜を食べようと呼び掛けた。

ちなみに10年前(2010～12年)の調査では、高知市民の飲酒代は2位に1万円以上の差をつけて、ぶつちぎりの1位(3万9930円)。カツオにも、2位の2倍以上の額(9588円)をつぎこんでいた。(富尾和方)